

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人 小羊学園

〒431-1304

静岡県浜松市細江町中川7440-1

電話：053-437-0826 FAX：053-437-0849

E-mail kohituji@imix.or.jp

H.P http://www.imix.or.jp/kohituji/

発行人：稲松 義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2006年11月20日

第 288 号

オンザロード

トウジエリコ

理事長 稲松 義人

個人的なことですが、一〇月一月は特に外に出ることが多くなりました。昨年からキリスト教社会事業同盟に關係する用が増えており、今年には知的障害施設関係の用がそれに重なったことが主な理由です。

正直いうと、自分たちの施設のことです。精一杯なこの時期に、外の役割が与えられていることに煩わしさを感じるのも事実ですが、社会福祉実践として守りの姿勢から内向してしまうのはよくありませんし、新しい出会いと交流の中から進むべき道が示されることもあると思うようにしています。実際、私自身、この一年は初めての体験を通して、たくさんさんの新鮮な学びをさせていただいたと感じています。

十一月七日から九日にかけての二泊三日は、千葉県館山市にある婦人保護施設「かにた婦人の村」を会場として開催されたキリスト教社会事業同盟の中堅職員研修会に出席しました。全国から集まった一四人の参加者と、私も含め主催者側四名の小さい研修会なのですが、この少人数で行うことの意味が十分に感じられる研修でした。

研修は、聖書の中にある物語を一緒

に読みつつ、その意味を思い巡らせながら、参加者がそれぞれ抱えている日常の課題を出し、お互いに聞き合い、話し合うというセッションを重ねていくことで進められます。食事を共にし、またレクリエーションのプログラムも織り交ぜ、参加者同士が心を開き語り合うことを通して、一人ひとりの中にある新しい力が引き出されるようになれば嬉しいと考えています。そして今年もまた、出会いと交流を通して、それぞれが私自身も元気をもらって研修を終えることができたと感じました。

また、標題のカタカナは、福祉施設で働く数名の仲間たちと一緒にはじめた、聖書を学ぶ会の名称です。日本語にする「エリコへの途上にて」と訳されるのですが、聖書の中にある「善きサマリヤ人」といわれる有名なたとえ話からの引用です。

この話をごく簡単に説明すると、エリコへ向かう途中で強盗に襲われて瀕死の重傷を負って道端に倒れてしまった旅人に対して、そこを通りかかった祭司や同胞とされるレビ人は、見捨てて通り過ぎてしまったのに、異邦人であるサマリヤ人が近寄って来てその旅人に関わりをもってくれ、町の宿屋に運んで介抱してくれたというあらすじです。キリストはこのたとえ話を「私の隣人とは誰ですか。」という問いへの応答として語られ、「あなたも行って(サマリヤ人と)同じようにしなさい。」と勧められています。

私たちがのように社会福祉の仕事に従事する者は、この物語に添って考えたとエリコへ向かう道に立たされているようなものではないだろうか、と思わされるのです。(あるいは、ある時には自分自身が傷ついて倒れてしまっているのかもしれないが)そして、私たちは何を考え、どのように行動すべきなのだろうかという事を考えられるような気がするので。

大きな課題を抱えている人たち、多くの支援を必要とする人たち、自分では応じきれない状況に直面すると、社会福祉を自分の職業にしている、そこから逃げ出したいくなる気持ちでいっぱいになります。真剣に取り組み、誠実に対応する人ほど、自分自身も傷つき倒れてしまいたいようになるのだらうと思います。だからこそ、私たちの働きを覚えて、陰から支えてくださり、お手伝いくださる方たちがいることは、私たちにとって大きな励ましとなるのです。そして何よりも、キリストご自身が私たち人間では担いきれない重荷を負うために来てくださったと信じるのだらうと思います。

今年もクリスマスが近づきます。多くの課題を抱えて生きる人たちのところへ、希望が感じられなくなっている社会の中で、確かな希望が感じられるクリスマスになりますよう、心から祈りたいと願っています。

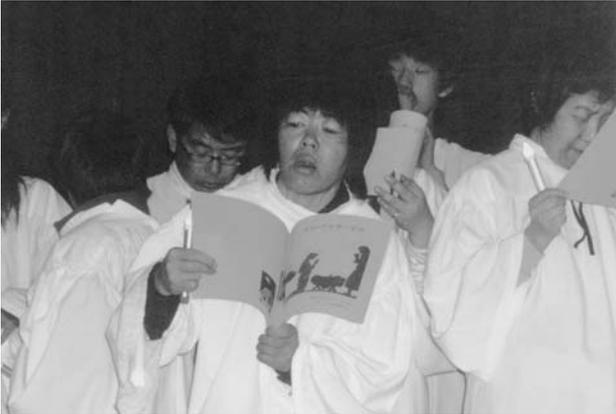
クリスマスを迎える

今年もクリスマスの季節を迎えようとしています。
 クリスマスは、小羊学園においては、どの施設でも1年の中で最も大切な行事の一つとなっています。
 実際にはそれぞれの施設でその年の担当職員が中心になって準備が進められますので、法人全体でお祝いすることはありませんが、それぞれがアイデアを出し合って計画されているクリスマスの迎え方についてご紹介してみることになりました。

一月一四日(木)午後六時半

小羊学園(児童寮・青年寮) キャンドルサービス

小羊学園(児童寮・青年寮)では、ご家族の皆さんも参加されるクリスマス会とは別に、夕食後にもたれる行事として、クリスマスのキャンドルサービスがもたれてきました。



▲ 昨年のキャンドルサービス

一月二〇日(水)

支援センターわかぎ 礼拝と祝会

午前中のクリスマス礼拝には、地元の日本基督教団浜北教会の佐伯牧師先生が来てくださいます。その後、クリスマス特別メニューの昼食を共にし、午後からは祝会を行います。

祝会には、小羊学園児童寮・青年寮の他、同じ地域にある他の施設を利用されている人たちが毎年来てくださいます。内容としては、四つの居室棟ごとに入居者と職員とで準備するアトラクションのほか、職員によるバンド演奏も恒例になっています。

一月二二日(金)

小羊デイケアホーム 礼拝と祝会

小羊デイケアホームのクリスマスは伝統的に、室内の装飾に一層の工夫を凝らしていることが特長です。

天井が高いのでクリスマスツリーは、児童寮・青年寮に負けない立派なものが用意されます。その名のとおり家庭的な小さな通所施設ですから、利用者の皆さんとそごご家族、ボランティアの皆さんを加えるとスペースとしては狭く、会場いっぱいになりますがお馴染みになっているフィフティショルダーズの皆さんによる歌など、アトラクションもあり、サンタクロースの登場もあり、温かな雰囲気包まれるクリスマスです。

マルカート 礼拝と祝会

マルカートは、今年でようやく二回目のクリスマスを迎えることになりました。礼拝をしてから、みんなで昼食をいただき、その後、祝会でアトラクションなどを楽しむのは他の施設と同じです。

昨年はマジックを見せてもらいましたが、今年は大道芸をしてくださる方に出演交渉をしているとかで、楽しみです。

◀ キャンドル型のペンライトをもって



ドルチェ

ドルチェは、学童保育の仕事をしているのですが、利用希望者が多いため実際には毎日のように違った子どもたちが通ってきます。そのため、全員と一緒にクリスマスを祝うことはできませんので、全体で特別なプログラムはもちません。その日その日のグループごとで、おやつなどの時間にクリスマスのお祝いをしたいと考えています。

オリーブの樹 祝会

小羊学園で三つ目となる知的障害者イサービスとして、今年の四月から始まりました。増築工事が終わり、新しい食堂を会場にして、クリスマス会を計画しています。オリーブの樹では今

年がはじめてのクリスマスになるので、現在、どんなプログラムにしようかと相談しているところです。

二月三日(土)

小羊学園(児童寮・青年寮)

礼拝と祝会

小羊学園のクリスマスは、早めの昼食をして、午後からクリスマス礼拝と祝会をします。礼拝には近隣の教会から牧師先生にきていただき、一年一度だけ会場で献金も集めます。個々の自主的なものですが、小羊学園がいつも多くの皆様から支えられていることに感謝し、クリスマスにはわずかながら私たちも献金しようという趣旨で続けられています。インドにあるセイレ



▲利用者と職員による聖誕劇

イ希望の家など、海外の福祉事業のためにお送りすることが多いです。

祝会では、職員コーラスと利用者職員によるクリスマス・ページェント(キリストの誕生の物語の劇)が恒例になっています。

つばさ静岡 礼拝と祝会

つばさ静岡では、昨年はじめてのクリスマスをお祝いしました。お昼前に一番大きなリハビリホールに集まり、礼拝では、静岡草深教会の小出牧師によるクリスマスメッセージを聞きま

二月四日(日)

支援センターわかぎ

浜北教会聖夜礼拝

支援センターわかぎでは、利用者の希望を聞いて外出してもらう機会があります。浜北教会で行われるクリスマスイブのキャンドルサービスに参加します。教会でのクリスマスキャンドル礼拝の雰囲気は格別です。少々お行儀の悪い人たちも温かく迎えてくれる教会の皆さんには本当に感謝です。

地域生活の家「ひだまり」 でオープンハウス

一〇月から青年寮の自活訓練事業として設置された「ひだまり」で、周辺にお住まいの皆様を対象に、一月五日にオープンハウスを実施しました。

小羊学園では、二〇〇三年に最初のグループホーム「温心寮」(この一〇月からは共同生活介護事業)を設置し、その後、児童寮の自活訓練棟として「あゆみホーム」を設置してきましたが、どちらも小羊学園から比較的近い場所にあり、周辺にお住まいの方たちも、以前から小羊学園のことを知ってくださっている方たちでしたので、非常にスムーズに地域移行をすることができたのだろうと思っています。

今回設置した「ひだまり」も距離的には車で七分程度のところですが、周辺の環境としては、三〇〇程度の住宅群の中にあり、小羊学園の存在も知らない方たちも任んでおられる場所でした。自治会の役員の皆様のご配慮もあり、事前に住民説明会をさせていただきましたが、様々の質問がだされ、新しい経験に不安を感じておられることが感じられました。そのときから、時期を見てオープ



「ひだまり」の玄関前で▲

ンハウスを計画し、近所の人たちに遊びによってもらうような機会を作りたいと思っていました。

当日は天候にも恵まれ、秋らしい優しい日差しの日でした。一〇時から午後四時の間に、九家族一九名の方たちが交代で「ひだまり」を訪ねてくださいました。お母さんと一緒に子どもたちも来てくださったり、小羊学園に隣接する聖隷クリストファー大学の学生さんがおられ、関心をもって訪ねてくださり、ゆっくりと「ひだまり」のメンバーと交流してくださいました。

様々な障害のある一人ひとりのことを、最初からすべて理解していただくことは難しいのかもしれませんが、近くで生活させていた中で、徐々に地域の住民の一人として受け入れられれば嬉しく思います。

小羊デイケアホーム

伊豆(伊東)へ一泊旅行

小羊デイケアホームでは、毎年一泊旅行を計画してきました。今年は利用者の経済的負担が大きくなったことで不安もありましたが、参加希望を取るかたちで例年通りに実施いたしました。

今年、伊豆方面ということで、サイクルスポーツセンター、シャボテン公園に行きました。宿泊は伊東市内のホテル、「♪伊東に行くなら…」ではありませんでしたが、職員で分担して一緒に温泉にも入りました。利用者の中には場所が変わるとほとんど夜眠れない方もおり、サイクルスポーツセンターといっても自分で自転車をこげる



▲ サイクルスポーツセンターにて

人も少なく、ペアになった職員は筋力トレーニングのような状態でしたが、日常では体験できないことを通して見られる利用者一人ひとりの表情から、喜びを分けてもらいました。

オリーブの樹(生活介護事業所)

増築工事がほぼ完了する

支援センターわかぎの入所者の日中活動の場として、一五年前に浜北の尾野に設置した「工房わかぎ」に併設するかたちで、今年の春から知的障害者デイサービスセンター「オリーブの樹」を開設し、活動を展開してきました。

開設に併せて、利用者が増えて手狭となった建物の増築を進めてきていましたが、その工事を一月二日に終えることができました。一二月には竣工式が計画されており、小羊デイケアホーム、マルカートと共に、三つ目の日中活動のための施設として、その役割を担っていきたいと考えています。

一〇月からは、障害者自立支援法によって、日中活動支援事業の一つである生活介護事業所として運営されており、在宅や地域生活(ケアホーム)で生活する人たち一四名が在籍しています。増築部分は一四一㎡で、食堂・休憩室やトイレ、スタッフ室があり、従来の工房わかぎの建物と一体として運営管理されます。



▲ 「オリーブの樹」増築部分

❖ 支える会だより ❖

小羊学園の移転改築計画案にそった建物の模型を設計事務所が作っていただきました。学園の玄関のところに展示していますので、お近くにお寄りの際にご覧になってください。

山浦明子先生のことをご心配くださり、お尋ねくださる方にあちこちでお目にかかります。明子先生は十字の園で生活されるようになって3年半が過ぎましたが、少し前に転倒されたことから(骨折等はなかったのですが)静養中心の生活になり、体力が落ちてきていることを心配しています。どうぞお祈りください。(稲松)

2006年度 小羊学園を支える会 寄付金報告

月	件	(円)
10	30	358,000
累 計	321	6,247,828

皆様のご支援に心より御礼申し上げます

(口座名義)「小羊学園を支える会」
 郵便振替口座 00890-4-45415
 りそな銀行浜松支店 (普通) 040005
 静岡銀行細江支店 (普通) 043483

❖ 小羊学園改築計画にご協力ください ❖

(問い合わせ先)
 〒431-1304 浜松市細江町中川 7440-1 小羊学園
 電話 053-437-0826

編集後記

障害者自立支援法に対して愚痴は言いたくないのですが、現実にはやはり厳しい施設運営を迫られています。多量なりとも経営を優先して考えると、サービスを利用できなくなる人がでてきたり、より大きな自己負担を強いられることになってしまいます。これからは福祉の仕事も、自分の身を守るために、あるいは有利になるために賢く立ち回れる人しか携わることのできない時代になるのでしょうか。

どちらにしても皆で心を合わせて支えあっていかなければなりません。本当はそれこそが一番大切なことなのですから。ご健康をお祈りします。(I)